

2004年度金沢大学考古学大会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 達夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/2960

金大考古

第45号

2004年度金沢大学考古学大会

佐々木達夫

本日6月12日は金沢で百万石祭りが開催されています。この時間には歴史的絵巻である百万石行列が金沢市の中心部を歩いているところです。卒業生のかたは思い出のある本日夜の加賀友禅灯籠流し、明日の金沢城や兼六園を中心とした行事も楽しんでいただきたいと思います。金沢大学考古学大会は、金沢大学考古学の卒業生、在學生、教員が年に一度集まり、教育研究の成果を報告し懇親を深め、一般の方にも研究室と教育研究を解放する機会でございます。

金沢大学に考古学講座が開設されたのは1974年、今年は30周年となります。新たな歩みに向かう記念事業として、金沢大学考古学紀要27号を30周年記念特集号として今月刊行しました。研究発表の後に、本日まで参加の執筆者に献呈式を行います。

研究室の30年。私にとりまして研究室のさまざまなことが思い出され、感慨深いものがあります。ご参加の卒業生もそれぞれの思い出と感慨があるに違いありません。これからの考古学のありかた、研究室の運営について、皆様の意見も伺いたいと思います。

考古学研究室の在學生は、博士課程5名、修士課程8名、学部の4年生22名、3年生12名、2年生11名です。学部学生の1学年定員は10名ですので、定員を超えています。専任の教員は4名です。この他に非常勤の先生方がおられ、学生教育の大きな力になっています。研究室主催の研究会や講演会も盛んで、こうした場で発表くださる方々から学生が学ぶ点も多く、学会運営などにも関わることによって学生が研究者として育つための準備となっています。

金沢大学考古学大会が卒業生と在學生の交流の場として開催されるようになってから、今年は13回めになります。考古学を通して交流と親睦を深めるのが会の趣旨ですので、これからの行事を楽しんで頂きたいと思います。ご参加くださった皆様を心から歓迎いたします。

2004年度金沢大学考古学大会プログラム

日時：2004年6月12日(土)13:00～

会場：金沢大学法経棟3階第1・第2会議室

主催：金沢大学文学部史学科考古学研究室

共催：古代学協会北陸支部、
金沢大学埋蔵文化財調査センター

13:00 開会挨拶 佐々木達夫

13:15 - 14:00 柳生俊樹(金沢大学社会環境科学研究科)「パレスティナにおける中央ユーラシア草原文化の痕跡」

14:00 - 14:45 向井 互(金沢大学社会環境科学研究科)「日本とタイ陶磁器の関わり」

15:00 - 15:45 井貫昇平(海外青年協力隊)「ブルガリア考古見聞記」

15:45 - 16:30 渡辺芳郎(鹿児島大学法文学部)「近世鹿児島における磁器生産 - 川内市平佐焼窯跡群の調査成果を中心に - 」

16:45 考古学紀要27号執筆者贈呈式

17:00 卒業生・一般の方々からの挨拶、及び学生自己紹介

18:00 懇親会：角間南福祉施設

金沢大学考古学大会参加者

教員 佐々木達夫、高浜秀、藤井純夫、中村慎一。

卒業生 相羽重徳(株式会社古田組)、井貫昇平(青年海外協力隊)、岩井浩介(弘前市教育委員会)、伊藤伸幸(名古屋大学)、北村佳弘、小松隆史(富士見町教育委員会)、小松有希子(諏訪市博物館)、酒井中(株式会社パスコ)、桜井秀雄(長野県埋蔵文化財センター)、庄田知充(金沢市埋蔵文化財センター)、菅野美香子(秋田県埋蔵文化財センター)、辻森由美子(金沢大学埋蔵文化財調査センター)、本田和裕(小矢部市教育委員会)、原田幹(愛知県教育委員会)、中本寛(中本鉄工)、山下平重(香川県教育委員会)、渡辺芳郎(鹿児島大学)、相京和茂(名古屋大学大学院)

一般 宮田進一(富山県埋蔵文化財センター)、垣内光次郎(石川県教育委員会)、山本幸子(古代学協会北陸支部)。

大学院生 小川光彦、向井互、柳生俊樹、高見哲士、田中範裕、広田典之、松井みはる、斉藤哲、寺崎彩子。

学部生 九千房百合、糸口佳孝、梅本哲也、

佐藤祐子、杉本芳江、高木俊治、成田弥生、
浜田景子、菱沼浩輔、猪股周一郎、加藤徹、
小泉多恵子、後藤崇文、佐藤琴美、高松与理
子、平尾雅之、矢島智之、石原祐介、木内伸、
剣持克洋、近村元気、西沢奈津子、彦坂愛子、
宮脇翔平、目黒勝、矢田部祐巳、吉岡絢子、
吉川嘉久。